

北谷町まちづくり町民会議 結果報告

令和2年12月21日 総合計画策定委員会

北谷町まちづくり町民会議 概要

(1) 実施期間

令和2年10月から令和3年3月(予定)

※現時点で5回開催(令和2年10月26日、27日、令和2年11月4日、5日、13日)

(2) 参加対象

町内に在住、在勤又は在学する16歳以上の者で継続して会議に参加できる者

(3) 参加者の公募

一般公募、町内関係団体への推薦依頼により実施

(4) 公募期間

令和2年9月14日から令和2年10月16日

(5) 周知方法

ア 開催案内チラシを全戸配布、イ 町HPへの掲載、ウ 町内金融機関へ開催案内チラシの設置

(6) 応募人数

ア 一般公募 23名(内17名を選定)、イ 団体推薦 8名

(7) 応募者選考

年齢、性別、地域のバランス等を考慮し選考

(8) 参加者内訳

男性14名、女性11名 年齢10代~70代

(9) その他

北谷町まちづくり町民会議の開催にあたっては、事前学習を行い、ワークショップを開催した。また、会議の円滑な進行を促すため、各グループにファシリテーターを配置した。

基本コンセプト たのしく ゆたかに たくましく 生きる

子育て・教育・文化・スポーツ

【特に協調された意見】

- ・何ができる/もっているというコンセプトより、どういう姿になるかという方向

【決定経過・コンセプトに込められた意味】

- ・「たくましく」=自立・自発的、健康、生きる力 ・「豊か」=文化、人として豊かな感性をもつ

【主な提言】

子育て支援の充実

- ・保育活フェア開催（子育て情報を集約して発信）
- ・町内企業を優先した施策の展開

幼児・学校教育の充実

- ・生きる力の醸成と、その為の環境整備
- ・社会人になった後にしっかり生きる事ができるように
- ・学びの個別化（学習方針をある程度自由に選べる）

青少年健全育成

- ・大人の学ぶ機会の提供（YouTubeの活用）
- ・大人の教育制度に関する周知
- ・SNSの使い方講座 ・SNSを使ったイベント情報の発信

生涯学習の振興

- ・公民館を儲けることができる施設として活用
- ・公民館を活用した学習プログラムを増やす

生涯スポーツの推進

- ・生きがいスポーツの振興
- ・体育館を整備して欲しい（町民が使う）

文化財の保全と文化の振興

- ・うがんじゅ（拝所）の学習ツアー
- ・文化を発信するYouTubeの設立
- ・北谷の歴史めぐり。元々の北谷について知れる機会

学びのまち・北谷

- ・次世代の社会を担う子どもたちの教育を充実させ、より良い暮らしをしてほしい。
- ・教育の情報発信に関する担当職員の配置



基本コンセプト 多様性と共に新しい今を創造するまち

産業(商工業・観光・漁業・農業等)

【特に協調された意見】

- ・今の成功を踏まえて新しいコンセプトにする。留まっていれば負けてしまう

【決定経過・コンセプトに込められた意味】

- ・単に今あるものを「アップグレード」するのではなく、新しいものを「創造」する

【主な提言】

商工業の振興

- ・スケボーや音楽イベントの定期開催
- ・モバイルWi-Fiの貸し出し・通信環境の整備
- ・リモートワークによる地方移住の増加
- ・美浜メディアステーションのスタジオを活用した映像の産業化

水産業の振興

- ・観光に軸足を置いた水産業の振興
- ・伝統漁業の継続支援

生きがい農業の振興

- ・産業として捉えるのではなく町民の健康づくりをテーマとした農業振興で生きがいづくり

跡地利用の推進

- ・伊礼原遺跡と北谷城を活用した観光教育

観光業の振興

- ・物理的に人を動かす道路、公共交通と情報を動かす為のネットワーク整備
- ・県内他自治体と同じことをするのではなく、広域的な役割分担が必要
- ・国内に対するブランディングを強化すべき
- ・マイクロツーリズムからの観光需要回復
- ・オーバーツーリズムへの配慮
- ・遺跡・伝統芸能などの資源の活用

就業者への支援

- ・コワーキングスペースの設置
- ・ビジネスマッチング支援
- ・高齢者への就業支援
- ・就業による転出を抑制するための企業誘致(働き口の確保)



基本コンセプト まじゅん 未来につなぐ エコ美らタウン

都市・環境・防災防犯・交通安全・上下水道

【特に協調された意見】

- ・現状、とても住みやすい町であるが、一層の住民参加と自然あふれる環境に配慮した町にしたい

【決定経過・コンセプトに込められた意味】

- ・みんな一緒につくる、持続可能でエコなまち、今まで受け継いできたものを未来につなぐ

【主な提言】

道路・交通ネットワークの充実

- ・歩いて楽しいまちづくり(渋滞解消、環境への配慮)
- ・バスレーンを設けるなどし、公共交通の利用を促進
- ・交通結節点パーク&ライド(基地跡地に)

適切な土地利用の誘導

- ・住みやすい・にぎやか等東西の良さを活かすまちづくり。
両面があってよいのでは。

上下水道の整備

- ・計画が見える化して、住民にイメージを共有して欲しい

災害対応・消防・救急

- ・基地・学校と連携した避難訓練
- ・要配慮者を含めた避難・救援を考える必要がある。

消費者保護

- ・情報共有の推進(ツールだけでなく、人と人のつながりも)

防犯・交通安全

- ・地域活動とのマッチングによる居場所づくり
- ・公民館を夜間も開いて居場所づくり
- ・若者の夜間徘徊対策としての居場所づくり
- ・学校の前を交通規制、道路構造の工夫を行う

自然環境・景観の保全

- ・まちなかのちょっとした緑化を増やす・木陰の整備
- ・無電柱化の推進

循環型社会の形成

- ・エコタウンエリアを設置し、社会実験
- ・エコタウン構想(SDGsの取組推進)

環境衛生の向上

- ・ゴミ拾いをイベント化(観光客も含めて)
- ・インセンティブを設けたボランティア



基本コンセプト あなたは北谷の宝です

健康づくり、地域・高齢者・障がい福祉・社会保障

【特に協調された意見】

- ・助けがすぐそばにあるまち、生きているのが面白いと感じるまち、分かち合い、助け合い

【決定経過・コンセプトに込められた意味】

- ・分け隔てなく誰もが安心して自由に望んだ人生をおくれるまち

【主な提言】

健康づくりの推進

- ・検診にポイント制を導入により受診意欲を向上させる
- ・SNSの活用により予防接種や検診の情報を早期周知
- ・食の観点から根本的な健康づくりを推進

地域福祉の推進

- ・区民同士の助け合いによる困りごとの解決促進
- ・楽しみながらボランティア育成
- ・公民館を中心に子どもも含めた地域活動を展開

障がい福祉の推進

- ・障がいの有無に関わらず、当たり前で学べる環境整備
- ・障がいに関する勉強会の開催

社会保障制度の周知・相談

- ・SNSを活用した情報発信 ・ワンストップ窓口の設置
- ・行政、民生委員等が集まれる仕組み、場所の設置

生活に困難を抱える人の支援

- ・ホテルやスーパーのフードロス支援に回す
- ・空き物件を町営住宅にして提供
- ・生活困窮者の実数把握
- ・支援メニューの正確な情報提供

高齢者福祉の推進

- ・思い出ノートの活用（認知症予防）
- ・保育所と老人施設の組み合わせ
- ・高齢者が講師となり、人生の学びや成功・失敗談などを次世代へ繋げる。
- ・高齢者を支えるだけでなく、生きがいをもって自動的に生きていけるという視点が大事



基本コンセプト 笑顔でふれあい 多文化を認め合う 平和を愛するまち

平和・基地・人権尊重・協働
男女共同参画・行財政運営

【特に協調された意見】

・平和や基地・人権・男女・協働は様々な個性を連想させ「多文化を認め合う」ということ

【決定経過・コンセプトに込められた意味】

・基地がなくなった時（あるいは有効活用できた時）、差別がなくなった時、男女の完全な平等が達成できたとき、協働が実践できたときに「平和」が訪れる

【主な提言】

平和の推進

- ・異文化交流の機会を設ける。部活動や学校の文化祭での交流など、軍関係者などとの異文化交流を図る。
- ・基地があることを強みに。交流による多文化の共生

基地問題への対応

- ・米軍関係者による事件・事故・特に男女トラブル等はネガティブなイメージが先行し、相談しにくいいため、基地問題に特化した相談窓口が必要。
- ・米軍基地職員としての雇用はスキルを活かせるチャンスになるのでは。

協働

- ・スポーツ交流などをおとした米軍関係者も含めた取組
- ・住民と行政が一体となった、まちづくりが必要である。

人権尊重の意識啓発

- ・町内に住む県外出身者の情報収集、また情報発信が必要である。お互いの“区別されている”という意識を解消する必要がある。

男女共同参画

- ・安定した雇用の場を確保する
- ・子どものころから男女共同参画の意識を醸成する

行財政運営

- ・家賃の地元割の導入（家賃が高くて住みづらい）
- ・観光税の導入の検討
- ・高度医療に対応できる医療施設をまちに誘致する

